

背景

- 日々の食事体験の魅力を向上させるには、美味しさだけでなく見た目も重要
- 見た目に貢献する要素として「器」に着目

器を選択する行為は「双対的な探索」

双方（料理と器）のどちらか一方を起点とした探索の繰り返し

→ 様々な可能性を考えつつ自らの嗜好やユースケースを認知しながらの情報処理が必要

目的

様々な可能性を考えつつ自らの嗜好やユースケースを認知しながらの器選択の円滑化



この器は写真での使われ方以外に

- ・他にどのような料理に使える？
- ・唐揚げにも使えるかも？
- ・他にどのような器と一緒に使える？
- ・こういう器と使えるかも？



AMPERE: 料理-器間探索システム

実装機能と期待される効果

器と料理の双対的検索機能

- 料理と器を互いにクエリとした検索
- コンピュータからの器と料理の提案により料理と器が紐づいた状態での検索が可能

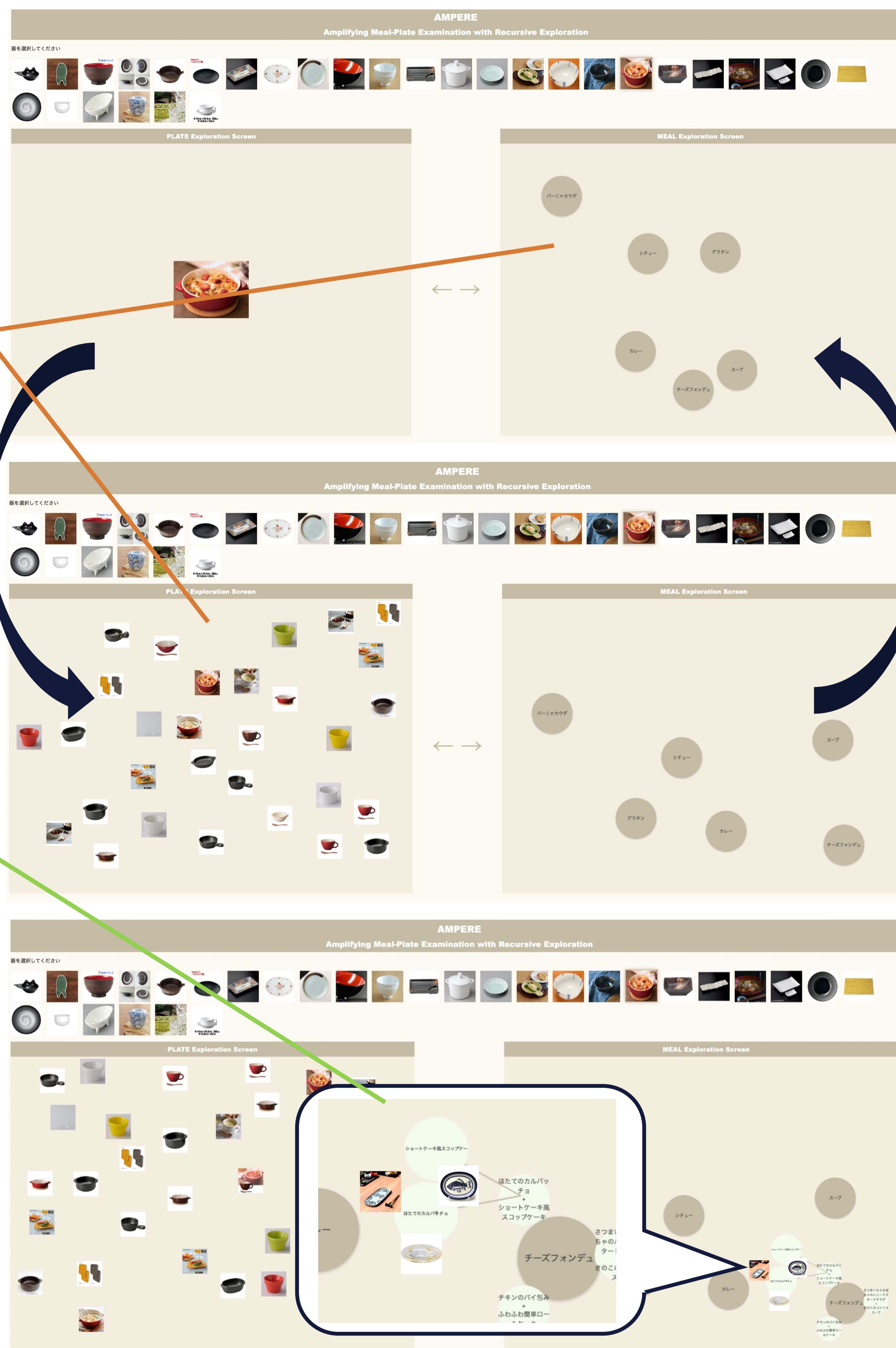
- 料理と器の相性に関する知見の獲得
- 固定観念や常識にとらわれない視点での意外性がある器の発見の獲得

献立情報を介した器の組合せの検索機能

- 器同士の組合せの相性に関する知見の獲得
- 既に選択したものとこれから選択するもの前後関係での相性を考慮しながらの選択

探索過程の視覚的明示

- これまで脳内で行っていた探索を画面上で行うことが可能になり整理がしやすくなる



探索の流れ

器を1つ選択

複数の料理が提案

料理を1つ選択

複数の器が提案

料理を1つ選択

献立とそれらの器が提案

要素技術 A. どのような料理に使えるのか

A-1 使用料理名の例を使用した料理-器の紐付け



器とその使用料理名の例は「相性が良い」とする

A-2 サイズ情報を使用した料理-器の紐付け



パスタと記載がある器とサイズが近い器は記載がなくてもパスタを物理的に盛り付け可能

B. どのような器と一緒に使えるのか

- 器の組合せは各々に盛り付ける料理によっても変化するため組合せが膨大
- レシピサイトの献立として構成されているレシピの共起関係を用いることで間接的に器同士の組合せのデータセットを構築

